

授業改善推進プラン 6年

令和7年度 小平市立小平第十三小学校

	身に付けさせたい力	手だて
国語科	・目的や意図に応じた話し方を身に付けさせるとともに、話し手の意図を自分の考えと比較しながら聞く。	・事実と意見とを区別して話させるようにする。集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容をまとめさせる。様々な立場から考えを伝え合う活動を意識的に取り入れる。
	・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えて書く。	・「はじめ」「中」「終わり」の順序や「事例と考え」「原因と結果」のつながりなどを意識して書かせる。提案文章やパンフレットを書くときは構成メモを作成させ、書き終えた後の推敲まで指導を行う。
	・文章全体の構成を捉え、要旨を把握して読む。	・事実と感想、意見等との関係を叙述を基におさえ、話し合い活動や学習者用端末を活用し、児童同士の交流を図る。
社会科	・地図帳や統計、年表などの複数の資料を通して情報を適切に読み取る。	◎複数の資料を比較し、共通点や相違点を明らかにする活動に取り組む。読み取ったことを白地図や年表、図表などにまとめる。
	・歴史や政治についての課題をもち、すすんで調べる。	・調べ学習では学習者用端末を活用して、課題を的確に把握させ、調べる視点や方法について指導する。調べた内容を学習者用端末を使って共有する。
	・より良い社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする。	・学習を振り返り、今と昔を比較し、自分事として考える活動を取り入れる。自分が社会にどう働き掛けていくか、自分にできることを考えていく。
算数科	・課題に意欲的かつ粘り強く取り組む。	◎既習事項を活用して課題解決に臨ませる。自力解決→全体共有という流れを基本とする。 ・デジタルドリルを活用し、個の能力や課題に応じた問題に取り組ませる。
	・分数や小数の計算を身に付けたり、数量の関係を理解して図や式に書き表したりする。	・朝の時間や授業の終末に、ベーシックドリルやデジタルドリルの演習問題に取り組ませ、基礎・基本の定着を図る。 ・数量の関係を数直線などに書き表し、的確に捉えさせる。
理科	・月の形の見え方や太陽との位置関係について理解できるようにする。	・実際に観察したりモデルや図で表したりして、多面的に理解を深めさせる。 ・移動教室の際に夜空の観察を行って、天体に対する興味関心を高める。
	・観察・実験の結果を考察し、自分の考えを表現する。	・事象提示→問題づくり→仮説→計画→実験（観察）→結果→考察という流れを基本として、ノートにまとめたり意見を発表し合ったりすることで、自分の考えを表現する力を高める。
音楽科	・パートの役割を理解して、友達の声や音と合わせて歌ったり演奏したりすることができる。	・互いの演奏を聴き合ったり、自分のパートと他のパートとの関わりを意識させて演奏したりする機会を設ける。
	・思いや意図をもって演奏したり音楽づくりをしたりできる。	・思いや意図を音楽表現につなげるために、曲想を表現できる言葉や話型を活用して、自分の言葉でまとめさせる。
図画工作科	・自分の個性を発揮し、想いや発想を豊かに表現する。	・児童が興味を抱きやすい題材を設定する。
		・一人一人の発想や想いを認め、表現する力を伸ばす。
家庭科	・自分の生活を見直し、実践していく知識・技能を身に付ける。	・目的に応じた縫い方が出来るように指導する。 ・学習者用端末で、目的に応じた縫い方や、ミシンの糸の通し方を確認させる。
		・栄養のバランスを考えて献立を作成し、調理できるよう計画を立てさせる。
体育科	・課題解決のための方法や活動を工夫し、自分や友達の考えを互いに伝え合えるようにする。	・学習カードやオリエンテーションにおいて運動の評価ポイントを明示し、学習者用端末の記録を基に動きを確認させるなどして自己評価・相互評価させる。
		・個々が自身の課題を設定し、それを解決するための工夫をしたり喜びを感じたりしながら、主体的に取り組むことができるような授業の流れや場の設定を行う。
特別の教科 道徳	・自分のよさを知り、自信をもって様々な活動を積極的に行う。	・心情図などを用いて考えさせ、考えたことや想像したことを可視化しながら伝え合う活動を行う。
		・授業や様々な活動の中で、それぞれのよさを認め合ったり自分と違う考えを受け止めたりできる機会を作る。
外国語科	・外国語の音声や表現に親しみながら、コミュニケーションの力を付ける。	・相手意識をもったコミュニケーションへの慣れを重視するとともに、4技能（話す、聞く、読む、書く）をバランス良く伸ばして中学英語につなげる。

手だての ◎ は令和7年度の学年における指導の重点を示します。
手だての下線部は、改善に向けた具体的な方策を示します。